

## 令和6年度 第2回経営審議会議事録

**日時** 令和6年9月17日(火) 12:50～14:10  
**場所** 本部棟2階 中会議室  
**出席者** 沖議長、中村委員、五福委員、晝田委員、中島委員、梶谷委員、則武委員  
(出席7/7名)  
(監事) 青木監事、上尾監事(出席2/2名)  
(オブザーバー) 佐藤副学長  
(事務局) 西山次長、名越課長、奥井課長、阿部経理班長、田中副参事  
藤原主幹、鈴木主任、吉賀総務班長

### 1 開会

### 2 議事録の確認

令和6年度第1回(令和6年6月14日開催)の議事録案は承認された。

### 3 議題

#### [1] 審議事項

##### (1) 次期理事長候補者の選考について

・事務局から資料1及び別添資料1により説明があり、原案どおり承認された。

##### 【意見等】

(問) 先日の第1回理事長選考会議は従来同様の方式で開催されたところだが、理事長候補者が最も重要であることから、スムーズに決定されればよいと思う。(意見)

##### (2) 第4期中期目標(案)に対する意見について

・事務局から資料2により説明があり、原案どおり承認され、役員会に付議することとされた。

##### 【質疑応答等】

(問) 中期目標は県主導で策定するのか。

(答) お話のとおりである。

(問) 県立大学の課題は貴学が最も把握していると思われるが、県はその課題を適切に吸い上げて策定したのか。

(答) 県においては、本学と議論しながら策定したところである。

(問) 現理事長の任期が本年度末で終了するが、次期理事長が我が事として引き継ぐことができるのか。

(答) 県は、本学と擦り合わせ及び、生き生きプランとの整合性を勘案しながら目標を策定、これを受けて本学が計画を策定しているところである。なお、県地方独立行政法人評価委員会において、本学から意見を述べ、修正案も頂戴したが、目標に記載されていない項目については、計画に盛り込むこととしている。併せて、国立大学と同様に、公立大学も自発的に動けるようにとの思いも伝えたところであり、今後、適切に引継ぎを行ってまいりたい。

(問) 学生の支援について、子どもの立場からは肩透かしのような印象を受けた。県立大学の目標は、主に地域に貢献できる人材を輩出することだと思う

が、学生が社会に出る前に人としての力を身に付けられるような全人的教育が重要だ。例えば、本会議で適宜報告される TOEIC について、点数ありきではなく人とコミュニケーションを図るためのスキル取得、また、昨今の多様性や急激に変化する社会に柔軟に対応できる思考力を持った人材の育成など、人格形成の視点を盛り込んだ内容があったら良いと思うがいかがか。

(答) 非常に重要な指摘であり、卒業するまでにお話のような力を付けてもらうことができるよう、学生本位の教育については次期計画に盛り込むこととしたい。

(問) 重点目標の県内定着や地域連携について、もう少し具体的に、前を出して明記してほしい。

(答) 目標は包括的で方向性を示すものであり、細かい項目は計画に落とし込んでまいりたい。

(問) 目標と計画の関係性等は承知した。改訂時期を迎えている生き生きプランは4年間、中期目標は6年間と期間が異なっているが、本目標は県庁のどの部署が所管しているのか。

(答) 総務学事課が中心となって策定している。

(問) 県はパブリックコメントを実施するとともに、県立大学に意見照会をしているとのことだが、貴学の学生にも周知し、意見を提出してもらうのか。

(答) 第3期中期目標のパブリックコメント時は、本学卒業生も提出していると聞いている。

(問) 県と県立大学で調整の上、策定したことから、意見なしでよい。

(答) 県は11月定例会に上程する予定と聞いており、本学は意見なしとする。

### (3) 第4期中期計画(案)の策定について

・事務局から別添資料2により説明があり、原案どおり承認され、役員会に付議することとされた。

#### 【質疑応答等】

(問) 現中期計画は同じ指標が散見されたが、今回はどうか。

(答) 次期中期計画はその課題を解消するため、重複がないよう策定している。

(問) No.15「相談相手がいない」学生の削減については、言葉の使い方を改めるべきだ。

(答) お話のとおり、適切な表現になるよう検討したい。

(問) 県内就職率はあるが、2. 学生の確保に県内を盛り込まなくてもよいのか。また、現在、県内出身者の割合はどのような状況か。

(答) 今後検討するが、仮に盛り込んだ場合、成果指標は定量ではなく定性となる。また、学部によって異なるが、県内・県外出身者の割合は同一程度である。

(問) 他の公立大学では、県内就職率などアウトプットの目標はあるのか。

(答) お話のとおり、他の公立大学も同様の目標があるものと認識している。なお、教員が県内企業をあまり知らない現状があることから、共同研究等を通じて、そのレベルの高さを実感することも県内就職率の向上に資すると考える。

(問) 学生の確保について、大学の先生が高校に出向いて出前授業をするなど、積極的に高大接続に取り組み、高校の先生に県立大学の魅力を知ってもらうことも必要だと思う。(意見)

- 教育内容の成果指標について、学部によって異なるがよいのか。
- (答) 情報工学部の就職率などは、保健福祉学部の国家試験合格率と概ね同一と考え、成果指標を定めたものである。
- (問) 教育は項目数が多い一方、研究は1項目のみで少ないが、これでよいのか。
- (答) 先程も申し上げた成果指標の重複を避けるため、1項目にしたところであるが、引き続き、研究力の向上に努めてまいりたい。
- (問) 外部資金の獲得も重要だが、研究の質の底上げ、さらには高めることが必要である。
- (答) 研究力の向上を図り、引き続き社会貢献にも取り組んでまいりたい。
- (問) 学生の確保について、特色のある副専攻「吉備の杜」教育プログラムを前面に出したアプローチの仕方もあると思うが、いかがか。
- (答) お話のことについては、現在検討を進めているところであり、「県立大学に行ってこれが学びたい。」と思ってもらえるよう、学生から「選ばれる大学」となるよう取り組んでまいりたい。

#### **(4) 地方独立行政法人法の改正に伴う関係規程等の改正について**

- ・事務局から資料3により説明があり、原案どおり承認され、役員会に付議することとされた。

### **[2] 報告事項**

#### **(1) 令和5年度 財務諸表等の承認について**

- ・事務局から資料4により報告があった。

### **[3] その他**

- ・事務局から、経営審議会委員に対して、学部・研究科外部評価委員会委員に引き続き就任していただきたい旨の依頼があった。

次回の開催は、令和6年10月18日(金)とされた。